

第42回全日本実業柔道個人選手権大会戦評  
(主に当連盟加盟チーム選手を中心)

男子66kg級

男子66kg級は、浅野が昨年の雪辱を果たし、2年ぶり二度目の栄冠に輝く。

優勝した一昨年のチャンピオン浅野大輔参段は苦しみながらも勝ち抜き、準決勝戦に進む。準決勝戦では、同僚の和泉強志三段を背負投有効で降して3年連続の決勝戦の舞台へ進む。

準優勝のパーク24の青木は勇介参段初戦から得意の背負投一本で勝ち上がる。準決勝戦では昨年に続き、これも背負投一本で勝ち上がった伊藤健太郎三段（自衛隊体育学校）と対戦。浅野は2分55秒に伊藤から体落で有効を奪い、決勝戦に勝ち上がる。

準決勝戦第1試合

3 青木 勇介②	(体落)	2 伊藤健太郎
(パーク24)		(自衛隊体育学校)

準決勝戦第2試合

3 浅野 大輔②	(背負投)	3 和泉 強志
(自衛隊体育学校)		(自衛隊体育学校)

決勝戦

3 青木 勇介	(優勢勝)	③ 3 浅野 大輔
(パーク24)		(自衛隊体育学校)

昨年と同一カードの決勝戦は、互いに左組み。両者、素早い動きから足技、背負投を繰り出す。1分6秒、浅野は青木が不用意に大きく踏み出した左足を小内刈で刈り取り、技ありを奪う。リードされた青木は、猛然と攻め立てるが、浅野は巧みに捌いて時間。浅野は昨年の雪辱を果たし、2年ぶり二度目の優勝を飾る。